

E N E O S 海外渡航支援事業報告書（留学渡航）

2025 年 9 月 7 日

工学部 工学研究科修士課程（どちらか〇で囲む）

所属学科・専攻・回生 材料工学 学科 専攻 1 回生

氏 名 定兼 祐輝

1. 渡航期間

2025 年 2 月 17 日 から 2025 年 7 月 10 日

2. 渡航先（国・場所・機関等）

スイス ローザンヌ スイス連邦工科大学ローザンヌ校

3. 留学で得られた成果（概要）

スイス連邦工科大学ローザンヌ校において、授業および課外活動の双方に積極的に取り組み、学問的・人間的に多くの成果を得ることができました。

学修面では、専攻分野である材料工学に加え、以前から関心を持っていた環境工学の授業も履修しました。同大学の授業は単なる講義にとどまらず、実践的なプロジェクトを通じて知識を応用する機会が豊富に設けられており、日本の大学では得難い貴重な経験を積むことができました。具体的には、Python を用いた原子動力学シミュレーションの実施や、複数人によるチームプロジェクトへの参加を通じて、理論と実践を結びつけながら学ぶ力を養いました。特に「Towards Sustainable Materials」という授業では、異なる専門性を持つ学生たちとチームを組み、サステナブルな製品の提案に取り組みました。多様なバックグラウンドを持つメンバーと協働する中で、自らの専門性を実際の製品開発に応用する面白さを体感するとともに、異なる視点を持つ人々との議論や調整を通じて、協働の在り方を学ぶことができました。

課外活動においては、クラブ活動および言語交換の取り組みを通じて、語学力と国際的な感覚の双方を磨きました。クラブ活動では、大気中の二酸化炭素を吸収する装置を製作するプロジェクトに参加し、材料工学の知見を活かして製品の最適化に貢献しました。さらに、言語交換サイトを活用し、日本語を学びたい学生たちと積極的に交流することで、語学力の向上のみならず、異文化を受け入れる柔軟性や多様な価値観を尊重する姿勢を培いました。単なる語学学習を超えて、互いの文化や考え方を共有することで、人間関係の幅を広げると同時に、自分自身の視野を拡張することができました。

これらの学びと経験を通じて築いた人とのつながりを今後も大切に、国際的な視野を持って研究や学びを継続していきます。

4. 奨学金の使途

渡航費（往復）